

シリーズ
学校・園では今
15

東観中学校の取り組み

東観中学校では、教育目標を「すべての生徒の学びの保障と豊かな人権感覚を持つ生徒の育成」とし「学び合い」を通して、確かな学力向上と人権意識や望ましい人間関係を築く力を育てることを目

指しています。日々の授業のほか、人権教育カリキュラムに沿った人権学習や人権フェスティバル、子ども人権フォーラム、文化祭での学年劇などにも取り組んでいます。今回はその一部を紹介します。

1年生の取り組みから

差別に対して自分は何ができるのか

「あっていい違い」と「あってはいけない違い」について話し合いました。グループやクラスでの活発な話し合いの中で、自分とは違う見方、考え方に気づき、価値観の押し付けが差別につながることを学びました。そして差別に対して自分はどうするか、何ができるかを考えることが大切だと感じました。これをきっかけに、3学期の出会い学習や人権学習を進めていきます。また、1年生では、エンジェルハート週間を何回か設定し、仲間の不安な思いを考えたり積極的に受け止めたりしながら仲間づくりを進めています。



クラスでの話し合い

2年生の取り組みから

他人事にしてている自分はいないか

絵本「わたしのせいじゃない」を基に普段の生活の中で、自分では気が付かないうちに人を不安にさせたり、嫌な思いをさせたりしてしまっていることはないか、また、「自分には関係ない」「自分のせいじゃない」と他人事にしてている自分はないかなど、今まで人に向けていた指を自分に向けて振り返ってきました。

文化祭では、絵本を劇にして演じたり、身近にあるさまざまな問題を題材にした劇を演じたりするなどの発表を通して、各クラスで「いじめをなくしたい!」「みんな笑顔で過ごせる学年にしよう!」という思いを伝え合いました。



人権劇の様子

3年生の取り組みから

一人一人の個性や違いを認め合える人になる

学年目標である「身の回りにおける差別の実態を知り、差別に気付く力を付けるとともに、差別の解消に向けて自分たちにできることを考え、実践する力を育てる」を目標に人権学習を進めてきました。

先日の出会い学習では、E L L Y代表の山口颯一さんを招いて、L G B Tについて学びました。「人の数だけ性別はある」「人の数だけ個性がある」という話から「自分らしさの大切さ」「一人一人の個性や違いを認め合える人になること」のヒントを教えてもらいました。当日は講演だけではなく、各クラス間での交流もあり、和やかな雰囲気の中、生徒一人一人が自分自身の意識や行動を振り返りました。



LGBTの講演会